

主编 吴侃 村木新次郎

高级日语

4



外教社

上海外语教育出版社

图书在版编目(CIP)数据

高级日语. 4/吴侃,(日)村木新次郎主编.

—上海:上海外语教育出版社,2005

ISBN 7-81095-137-8

I. 高… II. ①吴…②村… III. 日语—高等学校
—教材 IV. H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2004) 第 004811 号

主编 吴侃 村木新次郎

编者(以姓氏笔画为序)

中方 马安东(浙江大学日语系)	日方 三木麻由美(日本同志社女子大学)
王建民(上海水产大学日语系)	田口圣子(日本同志社女子大学)
叶琳(南京大学日语系)	村木新次郎(日本同志社女子大学)
吴侃(同济大学日语系)	森下训子(日本同志社女子大学)
谈建浩(同济大学日语系)	杨华(日本同志社女子大学)
徐曙(同济大学日语系)	
魏铀原(同济大学日语系)	

出版发行: 上海外语教育出版社

(上海外国语大学内) 邮编: 200083

电 话: 021-65425300 (总机)

电子邮箱: bookinfo@slep.com.cn

网 址: <http://www.slep.com.cn> <http://www.slep.com>

责任编辑: 应 允

印 刷: 常熟市人民印刷厂
经 销: 新华书店上海发行所
开 本: 787×960 1/16 印张 9.5 字数 197 千字
版 次: 2005 年 1 月 第 1 版 2005 年 9 月 第 2 次印刷
印 数: 5 000 册

书 号: ISBN 7-81095-137-8 / H · 046

定 价: 11.00 元

本版图书如有印装质量问题,可向本社调换

前 言

近年来,全球化的浪潮以前所未有的速度不断推进。同时,我国在历经 20 余年的改革开放,并取得了巨大成就之后,又成功地加入了世贸组织,这无疑是我国进一步融入世界体系的一大跨越。在这一形势下,外语的需求也进入了一个新的时期,全国范围内出现了新一轮外语热。日语也和其他语种一样,迎来了一个新的热潮。

但是,尽管需求极大,适用的日语教材,尤其是高级教材却不多,不少教材存在内容陈旧、讲解不尽准确等问题。同时,有些教材只顾及了语言知识的传授以及语言技能的训练,而忽略了对日本社会、文化的介绍和学习,造成了学习日语的学生不懂日本社会的现象。本教材正是针对这一情况而编写的,除传授语言知识外,还侧重对日本社会、文化的介绍和理解,力争在这一方面有所突破。

本教材是以大学本科日语专业 3、4 年级学生为对象的精读教材。整套教材共 4 册,1—3 册各 12 课,第 4 册 8 课。每课基本由课文、单词、文化·社会、表达、辨析、练习等部分组成。其中“表达(表現)”部分不拘泥于语法体系,涵盖了中国人学日语所需要的各方面内容,并特设专栏,讲解重点。“辨析(使い分け)”栏目主要讲解日语中容易混淆的一些语法现象、单词、句型、读法等。练习部分侧重“高级”阶段所需要的语言训练和文章理解。

本教材由中日双方共同编写。中日双方共同负责搜集课文素材,撰写“辨析”栏目;日方负责撰写“文化·社会”专栏、“表达”专栏,以及最终审稿;中方负责编写生词表、“表达”部分和练习部分。

在迎来新世纪的时刻,在总结以往中国的日语教学经验和教训的基础上,我们推出本教材,愿为使中国的日语教学更上一个新台阶而贡献微力。不足之处,望广大同仁予以批评指正。

本教材在编写过程中得到了日本国际交流基金的资助,在此表示由衷的感谢。

本教材所选用的文章的原作者欣然允诺免费使用其作品,借此机会,对他们表示由衷的感谢。

编 者

2004.5

推薦の辞

近代における中国の日本語学習・教育は、清末に始まり、すでに百年の歴史があります。ここ数十年では、日中国交回復と中国の改革・開放政策の実行で、二回の大きなブームが起これ、これから中国のWTO加盟で日中交流がいちだんと盛んになり、更に大きなブームが続くものと思われまます。

幸いにも、私は1980年8月から5年間、日本と中国の共同事業としての日本語教師培训班(通称大平学校)で、さらにその後の半年間、日本学研究センターで、中国の若い先生たちと、日本語を研究したり日本語の教え方を考えたり、また、中国で使う日本語教材「標準日本語」の編集に加わることもできましたが、この教材は現在中国で広く使用されています。私は、現在の中国の日本語教育のレベルは非常に高いものであると思います。

現在、中国における日本語の教材の中で、初級、中級の教材は優れたものがかなりあると思いますが、ハイレベルの上級用の教材はあるでしょうか。私が知っている上級用の教材は、日本の小説や随筆などから無難な部分を抜き出して並べただけのもので、それでは、現在の日本文化や社会事情を十分に理解する役にはあまり立たず、日本語のたしかな力をつける工夫もあまりなされているとは言えないようなものばかりです。現在でもその事状はあまりかわっていないのではないのでしょうか。

此の度、呉侃・村木新次郎両氏の編集による上級日本語を拝見して、私がずっと気にしてきた問題がほとんど解決されたことにほっとしています。日本の現在のいろいろな姿を描き出して、鋭い問題提起をしている「課文」、その課文を読みこなすための親切なガイド「新出単語」、日本の抱える問題点を明確に示す「文化・社会」、日本語の理解と運用の力を確実につけてくれる「表現」と「使い分け」など、実にすばらしいもので

あり、他の教科書に見られないものです。また、最後には相当に難しい、高いレベルの「練習」があることも、この教材を使えば高いレベルの学生が養成される保証になっているかと思います。

以上、この教材を、日本語を勉強する皆さん、日本語の先生方に心から推薦致します。

北京語言文化大学名誉教授

西安外国語学院名誉教授

京都外国語大学教授

佐治圭三

凡 例

1. 生词按课文中出现的顺序及词形列出。其中汉字的注音放在括号中,课文中未写汉字、或只写出该词的一部分汉字的词,在括号中写出带汉字的全部词。
2. 每个单词都标注重音和词性。仅是名词或词组的省略词性。词性略语见略语表。
3. 单词用双语释义,但有些非常简单,用中文即可一目了然的词,省略日语释义。
4. 表达按照课文中出现的顺序列出。表达条目用假名书写,有汉字的将汉字列在后面。其中,通常使用该汉字的,用实心黑方括号(【】);虽有汉字,但通常不写该汉字的用空心括号(〔 〕)标明。

5. 略语表

〈名〉	名词
〈他五〉	五段他动词
〈他一〉	一段他动词
〈自五〉	五段自动词
〈自一〉	一段自动词
〈他サ〉	サ变他动词
〈自サ〉	サ变自动词
〈自力〉	力变自动词
〈形〉	形容词
〈形動〉	だ型形容动词
〈タルト〉	タルト型形容动词
〈副〉	副词
〈接〉	接续词
〈感〉	感叹词
〈接頭〉	接头词,前缀
〈接尾〉	接尾词,后缀

* 「使い分け」中表示“不能用”

目次

第一課 キューポラのある町..... 1

新出単語
 表現
 1. なめる 2. たっぷり 3. ぱちぱち 4. ふうふう 5. もりもり 6. ～つ
 たらない 7. 加減 8. いい加減 9. のびのび 10. 根性 11. ともあれ

留意語句
 練習

第二課 冬の塔 19

新出単語
 表現
 1. 寄り添う 2. 煙る 3. かれん 4. きやしや 5. いかど 6. はたはた
 7. いたずらに 8. でっち上げる 9. 仰ぐ 10. ～んとする

留意語句
 練習

第三課 おそれという感情 34

新出単語
 表現
 1. 素性・素姓 2. 散らばる 3. かもす 4. しかと 5. ひねる 6. さか
 のぼる 7. 肝心 8. 馳せる 9. 情緒 10. 沈む 11. ～をして～しめる

留意語句
 練習

第四課 眼は人間のマナコである 54

新出単語
 表現

1. 坂 2. ～を措いてほかにない 3. 調子 4. ぴりっと 5. 凄み 6. も
のする 7. みっちり 8. 油断 9. ぞろぞろ 10. 業

留意語句

使い分け 言う・喋る・語る・話す・述べる

練習

第五課 「気」の構造 69

新出単語

表現

1. 義理 2. ぴりぴり 3. 格調 4. ～返る 5. ～あぐねる 6. ぼやける
7. それる 8. 気合 9. しいんと 10. 絞る・搾る

留意語句

練習

第六課 案内者 88

新出単語

表現

1. てんで 2. かい 3. 割り当てる 4. 持ち上がる 5. 免れる 6. ま
とまる 7. 骨折る 8. 世話 9. だけに

留意語句

練習

第七課 子よ妻よばらばらになれば浄土なり 106

新出単語

表現

1. ばらばら 2. おぼつかない 3. ちなむ 4. もめる 5. 持て余す
6. 紛らす 7. 得意 8. いざ 9. までも 10. とぼける

留意語句

練習

第八課 日本の庭 122

新出単語

表現

1. ゆかり 2. 捕らえる 3. かの 4. 気まぐれ 5. さり気ない 6. 趣

7. 備える 8. とどまる

使い分け とらえる・つかまえる

留意語句

練習

第一課 キューポラのある町

草船 ちよ

辰五郎が、景気よく手をあげて、店の女の子を呼んだ。

「おう、俺ら二人にはチュウに焼ギョーザ。……それから、そっちのテーブルのねえちゃんらと、ぼうずには、ラーメンだ。ラーメンでいいだろな、特大を四つだ。」

ジョーが、唇をなめて、にやりとした。

「あら、ジョー！ あんた、おごるんじゃないの？」

リスが、すっとんきょうに、とがめ立てる。

「いいんだ、いいんだ。おらあ、ジョーに、しごとの口をかけてもらっただからよ」

辰五郎は、ジャンパーのポケットへ手を入れて、じゃらじゃらっと、小銭の音をさせる。タカユキは、はっとして息をつめ、ジュンに、めくばせをした。

——ジョーの奴、ちえっ！ ジョーのやつ、覚えてやがれ。おれからまきあげた千円を、ポッポにあつためておいて、知らん顔して、おやじにまで、たかろうってんだ。

「今度の給料日には、稼いだ日が少なくて、取りぶんが少なかったけどよ、この次はや、豪勢におごるぜ」

辰五郎は、上機嫌で、唇をチュウのコップへもっていく。

人におごる——たえて久しくなかったことだ。

「ねえちゃんたち！ タカユキ！ 食ってくれ。おれさまのおごりだい」

「あらあ、どうも、ごちそうさま」

リスが、まっさきに箸をとり、ノブ子が、

「いただきまーす。おじさま」

と、辰五郎に、ていねいに頭をさげる。

辰五郎は二はい目のチュウのコップをつきだしながら、ますます、ご気げんである。

ノブ子の中華そばの丼は、ふちが少しかけているが、あつい油ぎった汁が、たっぷり入っている。

ノブ子は、目の前の調理場で、ラーメンや、焼きそばがつくられていくのを、もの珍しく熱心にみていた。カマの湯は、ぐらぐら煮えたぎり、大きな支那鍋で、油が煙をた

てて、パチパチはぜる。その鍋をかきまわす手品師のようにあざやかな手ぎわ。ノブ子は思わず、つばをのみこんだ。

——こういう食べ物を、気味わるいななんて、ママのように、あたし、決して思わない。いままで、あたし、こういうお店へ入ったことさえなかったのだ……。

ジュンやリスのするのをまねて、箸の先にラーメンをはさみあげて、ふうふう息をふきかけながら、ひと口たべる。つぎに、ちゅうちゅう、音をたてて汁をのむ。

「うまい! すごく」

(おいしい)と、いおうとして、もっと生活的ズバリに、いう。

「ノンコ、舌をやけどしないように」

ジュンが、にこにこして注意する。

「うん、とても熱い。小気味いいくらい」

リスは、そんなノブ子を面白がって、「きゃーっ」と、はでに笑う。そして、ノブ子の耳もとへささやく。

「ノン子、もうちょっと、うすぎたない店なんだけど、うんと安くて、うまくて、ボリュームあるとこへ、こんどつれてってあげようか」

「ほんと、ぜひね」

ノブ子は、幸福感と好奇心でいっぱいだった。

——社研のひとつたちは、《大衆のなかへ》って、口ぐせのようにいっている。こういうのを大衆的っていうんだろうか。

みんな勝手に、もりもり食べ、いい気げんでメートルあげて、叫ぶように、しゃべりあい、笑いあい、とても開放的だ。生活的で、すてきだ。

ジョーが、ちらちらと流し目で、ノブ子を見ている。——ジョンがはりあうようにやきもきしている。……ノブ子は、それを視線のはずれで感じとって、それも楽しかった。ジョーのような男が、町工場の労働者なんだろうか。

「彼なの、あなたに結婚しようといったのは？」

ノブ子が、リスにささやいた。

「そう。おかしいったらない。あのね、キスしてやったら、のぼせてしまったのよ」

「まあ! ショック!」

ノブ子は、深く息をすいこんで、目をキラリと光らせた。

「あら、ショックでも何でも、ありゃしない。キスしてやったくらい、……ね、そのあとで……」

早口にささやく。ノブ子は、頬を赤くほてらして、伏目になった。その頬へ、熱い息を吐きかけるようにして、リスはいいつづける。ノブ子は両手で耳をふさぎ、顔をはげしく横にふった。

「いや、いや。もういわないで！ いやってば。リスちゃんって、しつっこいから、いやっ」とすると、とつぜん、リスは、ゲラゲラ笑いだした。笑いが、止まらなかった。ノブ子は、ひどく気をわるくした。

「リスちゃんだって、いいかげん、のぼせていたじゃないの。電話で、じゃんじゃん、いまにも自殺しそうにいつてきて——あたし、あのとき、真にうけて、どんなに心配したか」

「え、結婚のこと？ あははは。あのときね、おやじとけんかして死ぬほど癪にさわったんで、家出して、ジョーのねぐらで一晩泊まっただけなのよ。汚い、酸っぱいみたいな、垢で光った布団よ。でも、あたいがいなくなると、弟がかawaiiそうでしょ、止めちゃったの。なによ、あんなヤクザなんか」

きこえよがしにいうと、リスは鼻の上に、くしゅんと、しわをよせて、笑っている。

「あきれた！ とまるなんて、そんなことしていいの」

「わるい？」

リスがからかうような流し目で反問する。

「いいえ、いいえ、それだけなら、善い悪いは、問題じゃないわ、でも、あなた、ほんとに何でもなかったの」

「何でもあるはずないわ、あたいの顔みてごらんささい」

リスの頬は、ほっと、上気して赤く、つややかに光っている。ノブ子は、だまって、リスの楽しげに動く、薄い唇をみつめている。

「ね、ノンコ、ほんとのこと、教えなげようか、ふふふ……」

「こわいわ」

「こわくなんかないわよ。その晩、ジョーが、ねぐらへ帰ってこないこと、パチンコ屋の用心棒に行くこと、兄きから聞いて知ってたんだ」

「あら、そう——、ほんと？」

「うそかもしれない。……でも、そんなこと、どうだというの、どうでもいいことじゃない？ むかしは、万葉のころまでは、男も女も、もっと、のびのびしてて、おおらかな毒をしたって、……スーパーマンだって、いつてたじゃない」

リスは、顔を近づけて、そうっと、ノブ子の指さきを握った。

「ね、ね。わかってちょうだい。あたいは、からだのなかに、いうことをきかない一匹のケモノを飼っている。すごく苦しい！ 息がつまっちゃうことがある。ね、わかって？」

「うん、うん。わかる。わかるわ」

何がわかるのか、分からない。しかし、ノブ子には、リスのからだのなかの〈いうことを聞かないケモノの感情〉を、痛いほど感じとることができる。その気まぐれな、とほうもないやつを。

「あつ！ タカユキ」

ジュンが叫んで立ちあがった。

「タカユキがいないわ」

タカユキのすわっていたテーブルには、割箸も割られないままに、手をつけられていないラーメンが、そのままにある。

「ほんとうだ。いつ、いなくなったのかしら」

リスが立って、戸口へいき、外の道をうかがうように、見まわして、また、もどってきた。

「おしっこに、どっかそのへんの横町へいったんじゃない」

「あの根性まがり野郎！」

辰五郎が、怒号して、テーブルをどんと、たたく。

「おれにおごってもらうのに、何が気にいらねえてんだ」

「へへへへへ……」

ジョーが、わらっていった。

「抵抗期ってやつなんだろうよ。ほっときな、おやじさん、ほっときな」

ジュンはまたしても、母のトミを思いうかべる。そろそろ薄暗くなりはじめた台所にこごんで、給料日の辰五郎のかえりを待ちわびている。とうちゃんはともあれ、ジュンは来てもいいころだ。戸外の靴音に、耳をすましているだろう……。急に、ラーメンがまずくなり、苦かった。ジュンは、食べ残して箸をおいた。

「キューポラのある町・未成年」(1965.5)による

新出単語

キューポラ①

鑄鉄の溶解に用いる円筒形の炉。溶銑炉。/熔鉄炉。

景気よく[けいき]①<副>

活動状況や威勢がいい様子。/活泼地,欢乐地。

チュウ[酎]①

「焼酎」の略。/烧酒,白酒。

ぼうず[坊主]①

1)僧。/僧侶,和尚。2)男の子を親しみ、またからかっていう語。/男孩,小鬼。

特大[とくだい]①

特別に大きいこと、また、そのもの。/特大。

唇[くちびる]①

嘴唇。

にやり②③<副>

意味ありげにちょっと笑う様子。/(高兴或幸灾乐祸时)一笑,嗤笑。

リス[栗鼠]①

リス科の哺乳類の総称。尾が房状で太くて長く、木の上を走り回る。ここでは女の子のあだ名。/松鼠。

おごる[奢る]⑩<他五>

とがめる[咎める]③<他一>

ジャンパー①

じゃらじゃら①<副>

小銭[こぜに]⑩

めくばせ[目配せ]②<名・自サ>

ちえっ①<感>

まきあげる[巻き上げる]④<他一>

ポッポ①

稼ぐ[かせ]②<他五>

取りぶん[とり分]②

豪勢[ごうせい]①<形動>

上機嫌[じょうきげん]③<名・形動>

たえて[絶えて]①<副>

中華そば[ちゅうか蕎麦]④

丼[どんぶり]⑩

ふち[縁]②

人に振る舞う。ごちそうする。/请客,做东。

1)悪事や欠点などをそれと指摘して非難する。/斥責,责备,申斥。2)不審に思って問いたたず。/盘问。

ゆったりとした活動的な上着。/夹克衫。

小石、銭などのような小さく堅いものがたくさん触れ合って立てる音を表わす語。/(小石子、硬幣等物的碰撞声)哗唧哗唧。

少額の貨幣。/零钱。

目で合図をすること。/使眼色,递眼神儿,暗示。

自分の意に反したり思いが通じないときに不快を示す語。また、舌を鳴らす際の音。/哼,哎,呸。

1)巻いて上に上げる。/卷上,卷起。2)脅かしたり、だましたりして金品などを奪い取る。/抢夺,攫取。

懐。懐中。/衣袋,腰包。

1)精出して働く。また、働いて収入を得る。/做工赚钱。2)金銭、時間、点数、物などの利益を得る。/努力取得。

自分の取るべき分。配分の割り前。分け前。/应得的份额,分得的份额。

普通とかけ離れて贅沢である様子。/豪华,奢侈,闹气。

たいそう機嫌がよいこと、またその様子。/情绪好,心情愉快。

関係が切れている様子。その後一度も。ぜんぜん。/再也未……,完全不……,总也……。

1)中国風の麺類の総称。/中国面条。2)ラーメン。/面条,拉面。

1)深くて厚い陶磁製の鉢。丼鉢。/大碗,大陶碗。2)丼鉢に盛ったご飯の上にいろいろな具を載せた料理。丼物。/(大碗)盖浇饭。3)職人などの腹掛けの前につけた袋状のもの入れ。/口袋,钱袋。

物の周りの部分。へり。/縁,边缘。

油ぎる[あぶら]④<自五>

油がたっぷり含まれている。油で覆われている、または汚れている。/油多的,油膩的。

汁[しる]①

1)果実、野菜などにある水分。/汁液,水分。2)吸い物、味噌汁、澄まし汁などの総称。/汤,汤汁。

調理場[ちょうりば]⑩

料理屋などの、料理をする場所。/厨房。

焼きそば[やき蕎麦]⑩

蒸した中華そばに野菜や肉などの具を加えて、油でいためた料理。/炒面。

カマ[釜]⑩

飯を炊いたり湯を沸かししたりする金属製の用具。鍋よりも深く作り、普通は腰につばがある。/锅,饭锅。

ぐらぐら①⑩<副・自サ>

1)激しく揺れ動く様子。/激烈晃动貌。2)湯などの沸きたぎる様子。/水沸滚开貌。

煮えたぎる[にえ滾る]④<自五>

激しく煮え立つ。/滚开,沸腾。

支那鍋[しななべ]⑩

中華料理用の鍋。/(中餐用的)锅,炒锅。

はぜる[爆ぜる]②<自一>

裂けて勢いよく飛び散る。/裂开,爆裂。

手品[てじな]①

巧妙な手さばきや種々の不思議な仕掛けなどで、人目をごまかして楽しませる芸。/戏法,魔术。

手ぎわ[て際]③①

物事を処理する方法や腕前。また、出来栄え。/手法,技巧;做出的结果。

つば[唾]①②

唾液。/唾液,唾沫。

ちゅうちゅう①<副>

汁などを吸って飲む音。/滋滋。

ズバリ②<副>

1)ためらわないで勢いよく、一度に断ち切る様子。/一刀切下(切开)。2)物事の急所、核心などを、鋭く正確につく様子。/直截了当,一针见血。

やけど[火傷]⑩<名・自サ>

火、熱湯などに触れて、皮膚が損傷すること。また、その傷。/烫伤,烧伤。

きゃー①<感>

女性や子供が驚きや戯れのための興奮から出す甲高い声。/嘻嘻,嘻嘻哈哈。

はで[派手]②<形動>

1)姿、形、色などが華やかで、人目を引く様子。/艳丽,花哨。2)性格、行動などが目立って大げさな様子。/大的,夸张的。

うすぎたない[薄汚い]⑤⑩<形>

何となく汚らしい様子。/脏兮兮的。

うんと①①<副>

量や程度が甚だしい様子。俗語的。/多,很。

ボリューム②⑩

1)音量。声量。/音量。2)量。容量。/量,分量。

とこ[所]②

メートルをあげる[メートルを上げる]①-⑩<連語>

ちらちら①<副・自サ>

流し目[なが・め]⑩③

はりあう[張り合う]③<自五>

やきもき①<副・自サ>

工場[こうば]③

のぼせる[逆上せる]⑩<自一>

キラリ②<副>

ほてる[火照る]②<自五>

伏目[ふしめ]⑩

ゲラゲラ①<副>

じゃんじゃん①<副>

いまにも[今にも]①<副>

真にうける[まに受ける]①-②<連語>

「ところ」の俗語。場所。/場所,地方。

(酒を飲んで)意気込みのあるところを示す。/兴高采烈;声势浩大。

1)物が見え隠れしたり、時々視線を向けたりする様子。/时隐时现,隐隐约约。2)光が断続的に弱く光る様子。/一闪一閃地。3)雪や花などの細かいものが散る様子。/(雪、花等物的飘落貌)纷纷。

顔を向けなくて、目玉だけをその方に向けて見ること。色目。秋波。多く、軽蔑や媚を表わす目の表情に言う。/(表示蔑视或献媚时的)飞眼,斜眼,秋波。

互いに負けないように競争し合う。対抗する。/竞争,抗争;攀比。

気をもんで、いらいらする様子。/焦急,焦虑不安。機械を使って物を作るところ。「こうじょう」より規模が小さく、技術的にそれほど先進的でないところを言う。/エフ,作坊。

1)頭部や顔が熱くぼうっとなる。上気する。/上火,头昏脑涨。2)普段の落ち着きを失う。また、うぬぼれる。/冲昏头脑,飘飘然。3)夢中になる。特に色毒に熱中する。/沉溺,热中。

瞬間的に鋭く光る様子。/一闪。

顔や体が熱気を帯びて熱く感じる。/(脸、身体)发烧,发热。

うつむいて下を見ること。また、その目つきや姿勢。/低头,眼睛往下看。

大声でとめどなく笑う声、その様子。/哈哈大笑。

1)続けて鳴る半鐘の音。/(接连不断的钟声)当当。2)立て続けに積極的に、また、派手に行動する様子。/一个劲儿地,接连不断地。

もう少しで。今すぐにも。/马上,眼看就要。

頭から本当だと思い込んだり信じたりする。/当真。